



寺、下野国分寺・尼寺跡があり、貴重な歴史・文化に恵まれた市でありますから、これらの保存整備に引き続き取り組まねばなりません。18年度から、国分寺跡では、鐘楼、僧坊の復元を10年計画で着手したいと思っております。

四 少子高齢化対策についてであります。

先日、私と同年代の団塊の世代の子どものうち、30代の女性の半数が、子どもを生んでいないとの報道がありました。

少子化の背景には、非婚化、晩婚化との意見もありますが、このままでは、ますます少子高齢化社会が加速いたしますので、重要な課題と位置づけ、子育てしやすい環境整備、保育園子育て支援センターの充実、病後保育を全市に拡大してまいります。

また、高齢化社会がますます進展していく中では、「いくつまで生きたかではなく、いかに元気に生きたか」が重要でありますから、生涯学習の充実に努

めてまいります。

五 安全・安心なまちづくり

下野市には、自治医科大学病院、石橋病院、小金井中央病院など、医療機関が充実していますので、連携して医療と福祉の充実した日本一健康なまちづくりを推進してまいります。

すでに小金井駅、自治医大駅にはエレベーター、エスカレーターが整備され、バリアフリー事業が整備されております。石橋駅には19年度からエレベーターを整備したいと考えております。

あの悲惨な今市市の学童事件は未だ手がかりすらなく、解決には至っておりません。県においても18年度から、県内の全中学校にスクールガードリーダーを、県の負担として配置することになりました。下野市におきましても、安全・安心な環境整備には行政の役割がもっとも重要であり、細かな気配りが求められています。そのため、通学路の見直しや防犯灯の増設に努めてまいります。

六 開かれた市政

各種委員会等の委員は、公募制とします。また、旧3町において年2回、合計6回にわたり、

市長、市幹部職員が地域に向いて市民の声を聞く「市長出前サロン」を開きます。

更に市民生活の基本となる条例制定、大きな事業や計画策定時には、パブリックコメント制度を導入して、市民の声を十分に反映させます。

七 産業の振興について

地の利を生かしたまちづくりを推進し、財政基盤の強化を図ってまいります。新四号国道を活用した、下野市の情報発信拠点となる「道の駅」を県内初として誘致したいと考えています。

農産物だけでなく、市内で製造された加工食品や菓子、日用製品なども展示販売すれば農・商・工の拠点になります。

また、観光案内や、歴史を紹介するなど、関係者とも十分相談し、新生下野市の情報発信拠点にしたいと考えています。

更に、南河内地区の西坪山の平地林に工業団地を造成して優良企業を誘致し、雇用の創出、仁良川地区土地区画整理事業地内への従業員の定住を進め、宅地の利用率を高めてまいります。また、法人税の増収等の一石三鳥の効果を期待していると

ころであります。

早期に都市計画のマスタプランを見直し、土地利用計画を示したいと考えております。

石橋地区、南河内地区の土地改良事業を引き続き進め、農業規模の拡大を図り、担い手の育成に努めます。また、国分寺地区のブランド野菜「ちぢみほうれんそう」に続き2地区にもブランド野菜を認定し、低農薬、有機質栽培で、新鮮で安全な農産物を奨励してまいります。

商業では、市内で賄えるものは市内で買う、つまり、「バイ下野運動」を展開し、少しでも地元の商店の売り上げ向上に努めて参ります。

「市民が主役の新生文化都市 下野市」を目指して、できるだけ早いうちに、新市のマスタープランとなる、総合計画を策定して、市の方向性と将来像を市民に示してまいります。

6万市民の皆様が、合併してよかったと思えるような、「市民が主役、融和と協働のまちづくり」に一生懸命取り組んでまいりますので、今後ともご支援ご協力を心からお願ひ申し上げます。